

第3章 2020年透析導入患者の動態

1. 臨床背景

2020年の患者調査票において、年齢と性別の記載が確認された導入患者数は38,549人であった。男性は26,983人、女性は11,566人で、導入患者の平均年齢は全体が70.88歳、男性が70.19歳、女性が72.48歳であった（図14、補足表14）。導入患者の平均年齢も慢性透析患者と同様、年々高齢化している（図15、補足表15）。最も割合が高い年齢層は、男性が70～74歳で、女性は80～84歳であった。

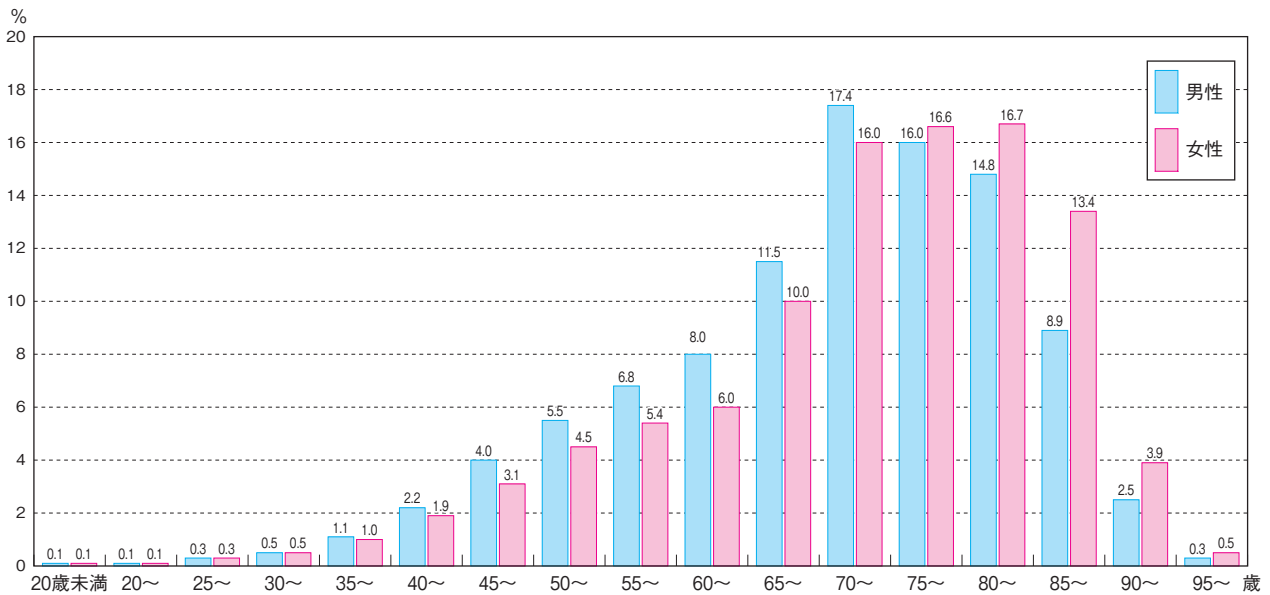


図14 導入患者 年齢と性別，2020

（患者調査による集計）

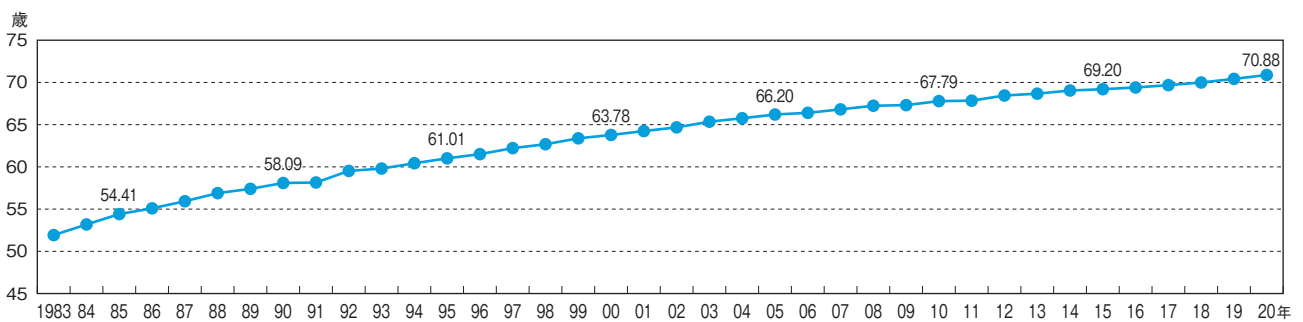


図15 導入患者 平均年齢の推移，1983-2020

（患者調査による集計）

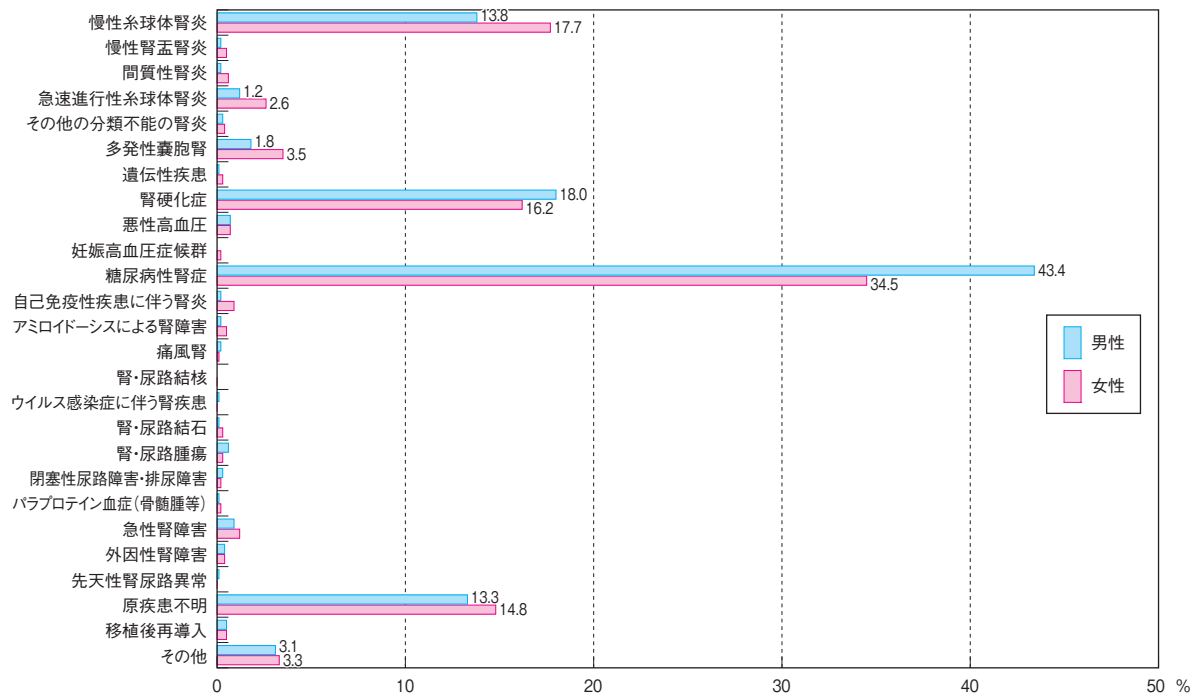


図 16 導入患者 原疾患と性別, 2020

(患者調査による集計)

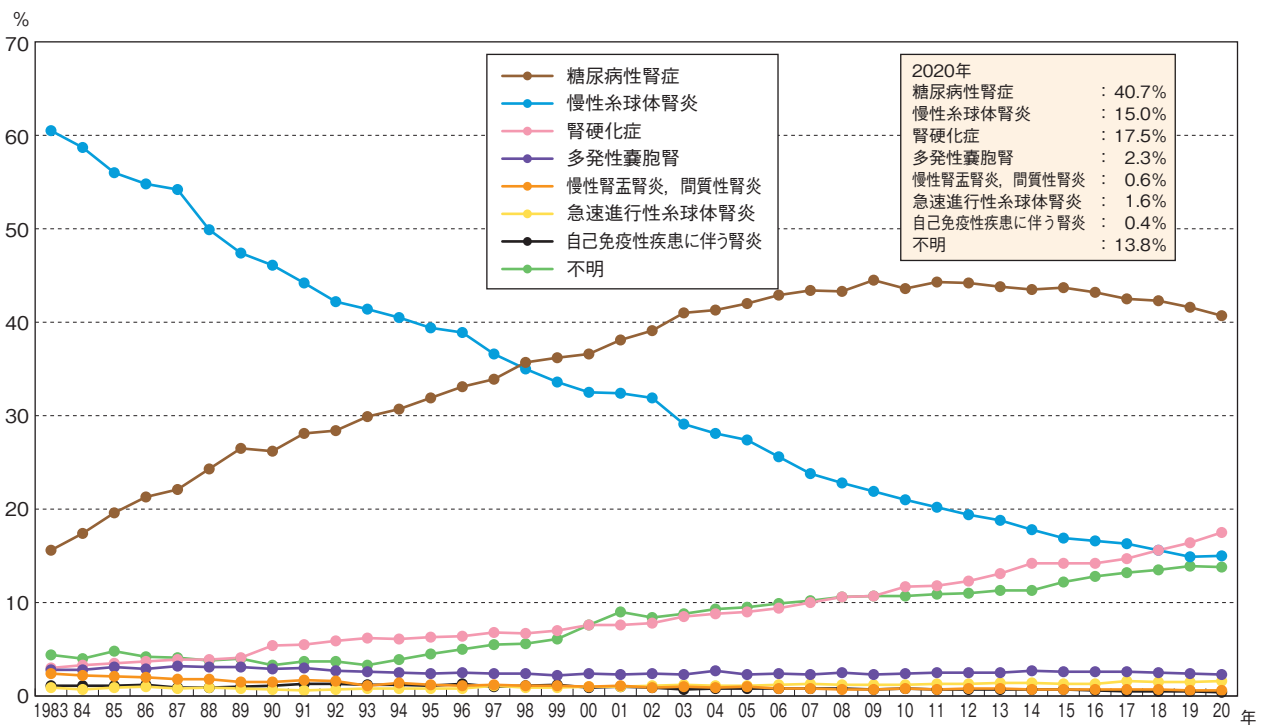


図 17 導入患者 原疾患割合の推移, 1983-2020

(患者調査による集計)

2020年導入患者の原疾患で最も多いのは糖尿病性腎症で40.7%、次いで腎硬化症の17.5%、慢性糸球体腎炎の15.0%であり、2019年に腎硬化症が慢性糸球体腎炎に代わって第2位となって以降、同様な傾向を認めている。原疾患不明は13.8%であった(図16, 補足表16)。導入患者の原疾患は、1998年に慢性糸球体腎炎に代わって、糖尿病性腎症が原疾患の第1位になって以来、一貫して増加していたが、近年は慢性糸球体腎炎と同様に減少傾向である。一方、腎硬化症の持続的な増加が認められる(図17, 補足表17)。

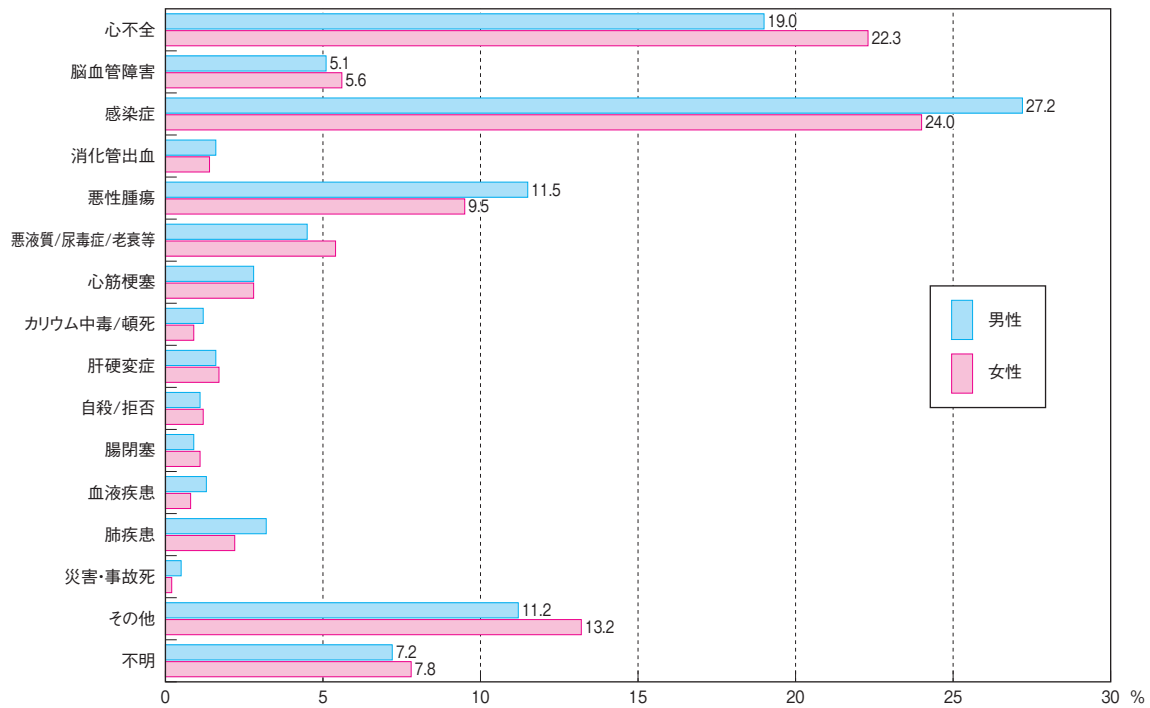


図 18 導入患者 死亡原因と性別, 2020

(患者調査による集計)

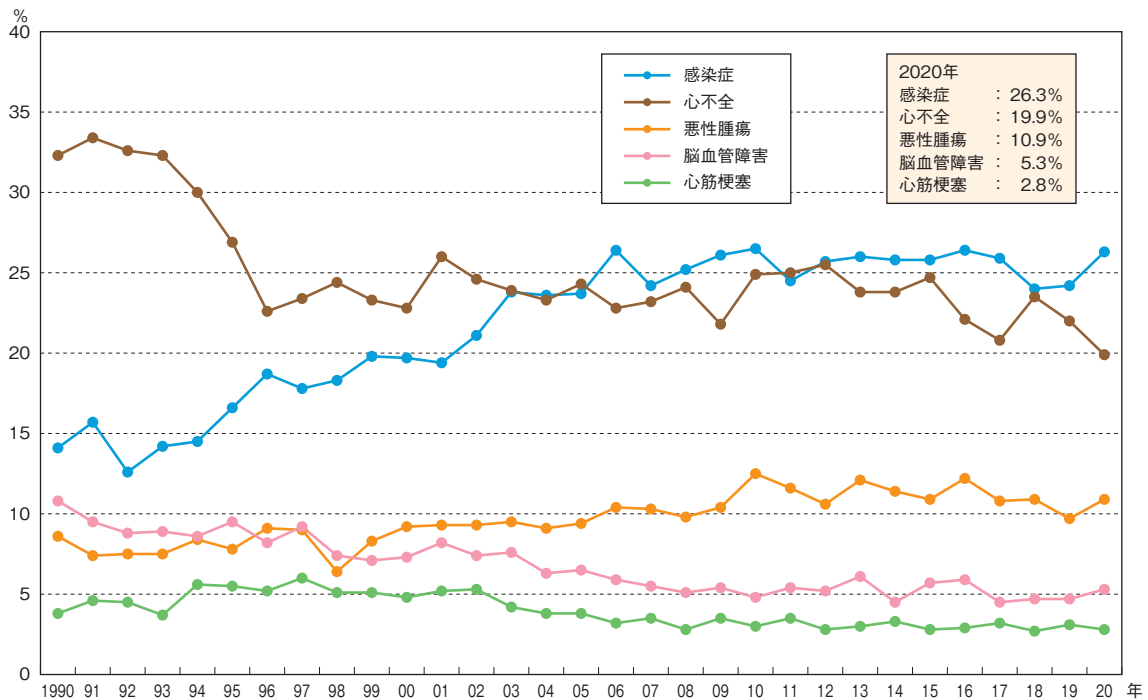


図 19 導入患者 死亡原因割合の推移, 1990-2020

(患者調査による集計)

2. 死亡原因

2020年導入患者の導入年内の死亡原因は、全体では感染症が26.3%と最も多く、次いで心不全が19.9%、悪性腫瘍が10.9%、脳血管障害が5.3%、悪液質/尿毒症/老衰等が4.7%、肺疾患が2.9%、心筋梗塞が2.8%であった。心血管死の合計は28.0%に漸減した（図18、補足表18）。透析導入年内の死亡原因の推移をみると、1990年代は心不全が最も多かったが、感染症が徐々に増加し、2006年頃から感染症が最も多い死因となった。悪性腫瘍による死亡の割合は、2006年以降10%前後を推移している。脳血管障害による死亡は、2006年以降5%前後を推移している（図19、補足表19）。